

第71回八丈島民大学講座（主催：八丈島文化協会・首都大学東京）が9月10日（土）夜と11日（日）午後、七島信用組合八丈島支店2階ホールで開かれ、2日間で延べ82人が受講しました。

1日目「自然界に学ぶ表面機能の不思議」（システムデザイン学部・諸貫信行教授）では、身近な動植物がもっているさまざまな表面機能の不思議な働きを科学的に解明し、人々の暮らしに活かそうとする研究が進み、特に微細な粒子の活用は便利な暮らしの実現に貢献しているが、海洋汚染などの深刻な問題もはらんでいる。海山に近い島は、生態系全体を見渡しやすい環境にあるので、注意深く見守っていく必要があることを学びました。

2日目「郷土史に親しむー地方史の読み方ー」（都市教養学部・谷口 央教授）では、地方史の編纂に当たっては、まず大きな柱を建てること、伝記・伝説が生まれた社会を知る、全国史と連動して地域独自の動きを捉える、史料に基づき過去の社会を浮かび上がらせるために地域を挙げて写真の収集に力を入れるなど、地方史を編むための貴重な助言をいただきました。

講師を派遣して下さった首都大学東京、会場を提供して下さった七島信用組合にお礼申し上げます。

### 10月～11月のイベント（協会主催・後援、加盟団体）

※協会の主催・後援イベントや加盟団体の活動を中心に掲載しています。詳細は協会ホームページおよび「FAXメール通信」をご参照ください。

- 10月 29日(土)東京文化財ウイーク開始(～11月6日(日)まで)
- 30日(日)NPOあびの実子ども招待公演「狂言ミュージカル・入間川」協会後援
- 11月 20日(日)宇喜多秀家供養舞(榎立踊り保存会)

## 文協コラム『南風』

◆ 暑い夏だった。地球規模の気象変動のためか、年齢を重ねたせいも両方だと思いが、近年の異常気象は異常とは思わなくらい異常が平常化してしまった。◆ 今夏も多様な文化イベントが開催された。旧い人間である私などは、「昔の話はするな！」とよく言われるが、私たちが島で文化活動らしきことを始めた昭和50(1975)年代に比べると、「よくぞここまで！」と文化活動の拡がりに嬉しくなる。多忙な合間を活用して団体・サークルのために、無償の労力と財政のやりくりに苦勞しながら奮闘する皆さんに頭が下がる。◆ この夏オリンピックもあつた。地球上のあらゆる人種が混ざり合ったといわれる南米ブラジル初の五輪の感動が私たちの幸福感を増幅させてくれたことに併せ、戦後71年の広島・長崎からのメッセージも心に残った。◆ 国際五輪委員会のバツハ会長は「人間は平等だ！という人類共通の価値は、それを分断しようとする力よりも強固なはずだ」と開会宣言で強調した。一方、8月6日の広島市長も「多様な価値を認め合いながら『共に生きる』『世界を目指し努力を重ねなければならぬ』と訴えた。

◆ 極みは、広島のごも達の平和宣言「私たちは待っているだけではないのです。誰が平和な世界にするのでしょうか。夢や希望にあふれた未来は、僕たち・私たちの一人一人がつくるのです」。8月6日、大人が忘れかけていることを子ども達に悟らせているような気持ちで聴いた。◆ 夏になると、終戦(敗戦)ということばが私に「平和」をきちんと考えなさいと問いかけてくる。年に1回くらいは、自分に平和を自覚することも大事なことだろうと、原爆忌から旧盆へと続くこの時期、本やTVや映画、アニメなどで、平和を築くために尽力している偉人たちが学ぼうとしている。◆ 近年、非寛容、優先主義、排外主義というあまり歓迎したくないことばもグローバル化し、国際的に共有されてしまったように思う。人間の尊厳をおびやかす貧困や格差の拡大、テロの脅威などが真夏の怪談のように日常生活の不安を増大させる時代だ。◆ そんな夏のひとときを過ごしながら「今夏も平和の思想を多くの人にたくさん教えてもらった」と自己満足しながら文化の秋を迎える。

(会長 内山江差夫)

# 八丈島文化協会 会報 第14号

八丈町三根4869-1 八丈島文化協会事務局 Tel/Fax 2-2833  
HP: <http://www.8jobunka.jimdo.com/> e-Mail: [bunkakyoukai8jo@yahoo.co.jp](mailto:bunkakyoukai8jo@yahoo.co.jp)

2016年10月14日発行

## JAZZフェスティバル 島内の小中高生がひとつに



「八丈島JAZZフェスティバル 2016」の最大の魅力は、「恒例！ プロとアマチュア 夢の共演」「実現！ 島内の小・中・高校生 が勢揃い」「初の試み！ 島外参加者との共演」の3つでした。まず、プロ・アマチュア夢の共演では、今年もプロの方の音を間近で聞くことができ、同じ舞台上で演奏する、というとても貴重な体験ができました。「自分もこんな風に吹きたい！ かっこいい！」「どうしてこんないい音が出るんだろう？ すごい！」そんな声が溢れていました。

また、今回の舞台は島内の小学生・中学生・高校生が勢揃いした、今までで一番大規模な舞台となりました。フィナーレでは、出演者、お客さん、全員がひとつになって「翼をください」を演奏しました。会場にいる一人一人がひとつの音楽を作る一員なんだと感じました。会場がひとつになれた瞬間を味わうことができ、とても感動しました。

そして、今年も島外参加者として、開成ジュニアアンサンブルのみなさんにおこしいただきました。日頃からビックバンド形式でJAZZを演奏している、開成ジュニアのみなさんの演奏は、小学生とは思えないほど迫力があり、私たちにとって大きな刺激になりました。

ここで、私たち「CJP」の活動を紹介します。「Children Jazz Project」略称「CJP」とは、この八丈島JAZZフェスティバルを自ら作り上げていきたい、続けていきたい・・・そんな思いを持った私たち、中高生で結成した団体です。(次頁



(前頁から) Tシャツやポスターのデザイン、チラシを配る宣伝活動、当日の演出やスタッフの仕事の手伝いまで、自分たちでできることは自分たちでやる。出演するだけでなく、企画や宣伝の段階から参加して、自分たちで作り上げるJAZZフェスティバルにする。それを目標に活動しています。

私たち"CJP"の活動やこのJAZZフェスティバルがどのような目的をもったイベントなのか、ということも まだまだ、知られていないのが現状です。

ぜひ、Children Jazz Project "CJP"の名前を覚えていただき、これからも私たちの活動を応援していただけたら嬉しいです。よろしくお願いします。

今年の八丈島JAZZフェスティバルも、たくさんの人のご協力のおかげで大成功に終わりました。本当にありがとうございます。

八丈島ジャズフェスティバル実行委員会  
CJP委員長 山下 真緒



## 文京区民オーケストラが八丈島演奏会 9/23・24

### 社会人、小中生徒、八丈混声合唱団との合同演奏も実現

文京区民、在勤者などで構成され、アマチュアのオーケストラとして海外公演も多い「文京区民オーケストラ八丈島演奏会」(楽団員・随行者91名が来島)が9月23日、24日におじゃれホールで開催されました。23日は、小中学生の音楽教室として行われ423名が鑑賞。八丈町歌では大賀郷中学校合唱部との生演奏によるコラボレーションもあり、本島初といえる本格的オーケストラの演奏を堪能しました。

24日は、一般島民への演奏会が行なわれ、ホールにほぼいっぱい350人以上が入場し、皆さんお馴染みの名曲もあって、大きな拍手が鳴りやまないほど高揚した雰囲気の良い舞台でした。

演奏会後のレセプションで、指導されている指揮者の松下 功氏(東京芸術大学副学長)は「八丈島の皆さんの文化レベルの高さに感心した。縁あっての演奏会なので今後も文京区と八丈町の文化交流を進めることを提案したい」と感想を述べられ、団長の太田 治氏は「海外公演などもしてきたが、今回、国内演奏会に八丈島を選んだことは大変良かった。島の皆さんの協力と文化水準の高さもあって、わがオーケストラにとっては新しい試みであったが大成功だった」と、八丈島への共感を熱く寄せていました。

文化協会は、後援団体として八丈町と共に、演奏会の成功のため協力しました。演奏会実現には、町立病院渡辺繁医師(団員・オーボエ奏者)のご尽力が大きかったことを記し、演奏会成功のお礼といたします。



## 昔の月見を 楽しもう!

### 榎立場踊り体験

8月18日、協会の交流イベントとして「昔の月見を楽しもう」を大賀郷園地で行いました。参加したのは、協会会員をはじめとした約50人。川上絢子さんによる八丈の月見にまつわる昔話が披露されたあと、榎立場踊り保存会のみなさんのご指導で、昔、月見のときに踊られていたという榎立場の「場踊り」を参加者全員が体験しました。

食べたり飲んだり踊ったりしながら楽しんだという昔の月見にちなみ、絢子さんが用意してくださったお供えのごまおにぎりや、保存会さんからの差し入れの岡山のきび団子なども口にして、さあ、最後にもうひと踊り、と思ったところで、お月さまが雲がくれ・・・雨まで降ってきて、そのまま解散に。

最後はちょっと残念でしたが、去年は最初から雨天で催し自体ができなかったのが、今年はまんまるのお月さまのもと、「昔の月見」をみなで体験することができてよかったと思います。



## 文化フェスティバル 今年も開

第28回八丈島文化フェスティバルが来年1月に開催されます。

舞台部門は22日に多目的ホールおじゃれで、  
作品展部門は16日から22日まで町民ギャラリーで行われます。

協会加盟団体を中心に、島内で文化活動を行っているグループや個人が日ごろの成果を発表します。ご期待ください!

## 八丈島芸能文化祭を終えて 9/18

念願の300名以上の集客を達成でき、思わずガッツポーズがでました。振り返ってみれば、実行委員会の立ち上げに始まり、予算組み、舞台の内容等、各部門の委員になっていただいた方々の献身的な働きなしには、9月18日は迎えられませんでした。最終リハーサルの際にまで内容の検討がなされましたが、よりよい舞台作りには、このような努力が必要な事だと思います。

第5回の八丈島芸能文化祭実行委員には、今回以上の多数の方々の参加をお願いします。

一緒に活動しませんか。 芸能文化祭実行委員長 奥山

